



数字が独り歩きした議論

選挙前の国会で、2千万円問題
 が大きな論戦となった。金融庁の
 研究会で出てきた数字が独り歩き
 して、大きな論争となった。日本
 人の寿命が延びて、90歳を超える
 ような人が増えている。年金をも
 らいながら生活をする年数が長
 くなる。一方で、年金を支える現役
 世代の人の数は減少傾向である。
 年金財政はますます厳しくなる。
 少し考えれば分かることだが、
 こうした現実を踏まえて、国民一
 人一人が人生設計についてきちっ
 と考える時期に来ている。年金の
 制度は重要なものであるが、それ
 で老後の生活が全て賄えると思っ

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

年金と老後資金200万円問題

のは錯覚だ。国民が年金に過度な
 期待を寄せるようなことがないよ
 うに、政府関係者も年金の説明に
 は神経を使わなくてはならない。
 2千万円問題は数字だけが独り歩
 きました議論となってしまったが、
 老後の資金について現役時代から
 しっかりと準備をする必要がある
 という気持ちを国民の多くに持た
 せたいという意味では良かった面も
 ある。
 年金はどのような方向に向かう
 のだろうか。富裕層からもっと税
 金を取って防衛費や公共事業費な
 どを大幅に削れば、もっと年金が
 出せるはずだという議論がある
 が、これは現実的な議論ではない。
 富裕層にもっと少し負担を求めると
 いうのは良いとしても、それで捻
 出できる資金には限界がある。ま
 してや防衛費や公共事業費という
 別の歳出項目との比較で議論する
 のは、あまりに乱暴すぎる。
 重要なことは、高齢者が増える
 一方で現役世代が細ってくる中
 で、年金の仕組みを維持できるの
 かということだ。年金財政を破綻
 させないためには、年金として支
 払う金額を少しずつ減らす方向で
 調整するしかない。年金を支える
 現役世代が減る中で、「入りと出」
 を調整するにはそれしかない。こ
 れがマクロ経済スライドという考
 え方だ。年金の給付額を減らすと
 いうのではない。物価上昇率に比
 べて低い率で年金の給付を増やし

ていくということだ。
 これから年金をもらう世代にと
 って、うれしい話ではない。た
 だ、自分たちが引退する際には
 年金財政が底をついているのでは
 ないかと心配している若い世代に
 とっては良い話である。高齢者が
 受け取る年金が過度に減っていく
 ことは避けるとしても、年金財政
 が将来に渡って安定的である状態
 にすることこそ、政府に求められ
 た重要な役割である。
 人生設計修正する契機に
 マクロ経済スライドは、すでに
 決定されたことではあるが、それ
 を運用する上ではさまざまな政治
 的な抵抗があるだろう。今後、マ
 クロ経済スライドについていろい
 ろな局面で議論が高まるだろう。
 多くの国民にとっても自分たちの
 生活に大きな影響を及ぼす問題で
 あるので関心を持ってほしいもの
 だ。
 それにしても、少子化と高齢化
 という大きな社会の変化に対応し
 なくてはならないのは年金制度だ
 けではない。もっと重要なことは、
 私たち一人一人が自分の人生設計
 を修正することだ。変化へ
 の対応を全て政府に押し付けてす
 むはずはない。何歳まで働き続け
 るのか、老後のためにどれだけ資
 金をためておくのか、資産運用を
 どうするのか、長い年月働き続け
 るために学校を出てからも新しい
 ことを学ぶために何か手を打つの
 か。人生100年時代ということ
 でよく取り上げられることだが、
 こうしたことの重要性をより多く
 の人が実感するようになるだろ
 う。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。